

生愛祭2026 開催
特集：『地域に根ざして29年、30周年に向けた新たなステップ』
～ 地 域 の 皆 様 と と も に ～

生愛TIMES

2026年（令和8年）9月

第36号



利用者・スタッフ・理事長らによる
昭和の鉄道と田園のジオラマ



SEIAIKAI
HEALTHCARE
CORPORATION



SEIAI WELFARE
PROJECT
GROUP

目 次

巻頭言 本間達也理事長 / 1

本間達也理事長 講演紹介 / 2～6

大戸齊先生紹介
市社協視察に来所 / 7

ヴォイスふくしま 第10回納涼祭
福島市中央地区町会連合会 講演会
令和8年度福島県福祉・介護職員のと
つどい / 8

福島県老健協会 総会
・管理職等研修会 / 9

福島県老人保健施設大会 / 10

歌声喫茶・世代間交流 / 11

生愛会拡大新年会 / 12

生愛祭2026 / 13～15

施設内研修
技能実習生 電動自転車講習
昭和歌謡ボランティア / 16

寿司イベント
園芸療法 / 17

生愛福祉事業団 行事報告 / 18



本館

医療法人 生愛会 附属介護老人保健施設
生愛会ナースングケアセンター



2
号館

社会福祉法人 生愛福祉事業団
特別養護老人ホーム 生愛 ガーデ
ングループホーム 生愛レジデンス



4
号館

医療法人 生愛会
社会福祉法人 生愛福祉事業団

巻頭言

「熊本地震から改めて
災害の意識を高く」

医療法人 生愛会グループ 理事長

総院長
医学博士 本間達也



壊れ、交通網の破断、物流にも大きな被害が出ている状況で避難生活を送られている方も多数おられます。

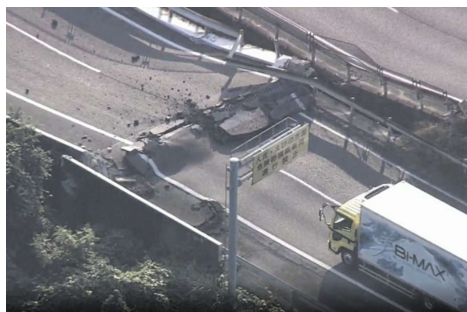
熊本地震で被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

常日頃より、生愛会グループの運営につきまして、多大なるご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

『令和8年 熊本地震』

2026（令和8）年7月

28日（火）16時27分頃、熊本県熊本地方の深さ16km、マグニチュード7.1の地震が発生しました。熊本県宇城市及び氷川町で震度7を観測し、熊本県全域に甚大な被害をもたらしました。現在でも余震が続いており、地震発生以降、8月12日現在までに、この地震による地震活動域で、震度1以上を観測した地震が623回発生しております。更に倒



隆起した高速道路
2026年7月28日午後6時ごろの映像

『医療・介護現場の状況』

熊本県人吉市で病院・老健施設を運営している私の先輩

に直接被災の状況を伺いましたところ、問題なのは停電、断水であるとのことでした。

飲料水については、ペットボトルの配給や給水車で賄うことができるとのことでしたが、

厨房の洗浄機や洗濯用水、入浴時の水などの生活用水が確保できないとのことでした。

また、水を引き上げるにも停電によつてポンプが使用できず、関西方面の消防ポンプ車で水が送れるようになったとのことでした。

約2日間の断水、停電においても施設への影響は多大であることを現地の生の声を聞き、身が引き締まる思いでした。

『高齢者施設での感染症との闘い』

現地の声を伺いましたところ、多くの高齢者施設では、水の確保ができず、入浴を中止したり、オムツの交換頻度を少なくするなど、緊急的な対応をとっていることが想起されました。衛生環境を保つことが難しい状況、また、密

閉・密集の環境下で生活を送らなければならない状況を強いられます。熊本市にある私の友人の施設では、コロナによるクラスターが発生し、職員が疲弊していると伺いました。改めて、衛生管理における水の大切さを感じたところです。

生愛会グループにおいては、土砂災害等も想定して、各施設ごとにBCP計画に基づいて、長期保存が可能な飲料水を災害時の食料とともに備蓄をしているところではありましたが、この度、新たに追加購入をしました。また、災害時に使用する物資の保管場所について、日常使用する物品等に加えて、災害時の物資も保管するとなると、膨大な量となるため、苦慮しておりますが、熊本での震災を機会に、災害物資保管庫を、新たに増設したところです。

『熊本では酷暑との闘い』

そして、今回の熊本地震の最大の敵は酷暑であると感じました。

熊本震災翌日から猛暑となり、8月3日（月）には、熊本市では観測史上最高となる

40.3度を記録しました。被災地では地震の傷跡が癒えぬまま、記録的な猛暑にさらされることになりました。

記憶に新しい、一昨年の能登半島地震も同様でしたが、私達も、東日本大震災では寒さとの闘いでした。寒さに対しては、利用者に厚着を勧め、毛布や布団にくるまる等の対応ができましたが、暑さに対応するには限界があります。当施設では、熱中症対策として、水分補給のためのアイス、保冷のための冷凍庫を購入しましたが、災害時となると、その規模が想定を上回ることを痛感しました。

今後さらに、夏場の酷暑を想定した新たな対策を至急実施して行きたいと思えます。

ほんま たつや / 医学博士

老健管理認定医
（日本老年医学会）
主な役職等

（医）生愛会グループ 理事長 総院長
（社）生愛福祉事業団 理事長
福島県老人保健施設協会 会長
福島県医師会倫理審査委員
金沢大学医学部臨床教授
福島県立医科大学医学部臨床教授
奥羽大学歯学部客員教授
日本健康促進医学会 理事
日本認知症ケア学会 代議員
全国老人保健施設協会 元副会長

講演紹介

高齢者の特性と医療 介護事故
 東京地方裁判所立川支部での高齢者医療
 介護の実態に関する講演より

医療法人 生愛会グループ 理事長

総院長
 医学博士 本間達也



より御依頼をいただき、2018（平成30）年に私が東京地方裁判所立川支部で講演させていただいた「高齢者医療・介護の実態」について話をいたして参りました。

大原医療センターにて医療・介護連携契約記念講演



福岡県の老健職員200名に講演



福島市医師会会員300名に講演をする本間達也理事長



NPO法人 福島県福祉サービス振興会 会員60名に講演

大原記念財団 年報 第六十一巻	
目次	
理事長 本間達也	1
副理事長 山崎正樹	2
常務理事 山崎正樹	3
理事 山崎正樹	4
理事 山崎正樹	5
理事 山崎正樹	6
理事 山崎正樹	7
理事 山崎正樹	8
理事 山崎正樹	9
理事 山崎正樹	10
理事 山崎正樹	11
理事 山崎正樹	12
理事 山崎正樹	13
理事 山崎正樹	14
理事 山崎正樹	15
理事 山崎正樹	16
理事 山崎正樹	17
理事 山崎正樹	18
理事 山崎正樹	19
理事 山崎正樹	20
理事 山崎正樹	21
理事 山崎正樹	22
理事 山崎正樹	23
理事 山崎正樹	24
理事 山崎正樹	25
理事 山崎正樹	26
理事 山崎正樹	27
理事 山崎正樹	28
理事 山崎正樹	29
理事 山崎正樹	30
理事 山崎正樹	31
理事 山崎正樹	32
理事 山崎正樹	33
理事 山崎正樹	34
理事 山崎正樹	35
理事 山崎正樹	36
理事 山崎正樹	37
理事 山崎正樹	38
理事 山崎正樹	39
理事 山崎正樹	40
理事 山崎正樹	41
理事 山崎正樹	42
理事 山崎正樹	43
理事 山崎正樹	44
理事 山崎正樹	45
理事 山崎正樹	46
理事 山崎正樹	47
理事 山崎正樹	48
理事 山崎正樹	49
理事 山崎正樹	50
理事 山崎正樹	51
理事 山崎正樹	52
理事 山崎正樹	53
理事 山崎正樹	54
理事 山崎正樹	55
理事 山崎正樹	56
理事 山崎正樹	57
理事 山崎正樹	58
理事 山崎正樹	59
理事 山崎正樹	60
理事 山崎正樹	61
理事 山崎正樹	62
理事 山崎正樹	63
理事 山崎正樹	64
理事 山崎正樹	65
理事 山崎正樹	66
理事 山崎正樹	67
理事 山崎正樹	68
理事 山崎正樹	69
理事 山崎正樹	70
理事 山崎正樹	71
理事 山崎正樹	72
理事 山崎正樹	73
理事 山崎正樹	74
理事 山崎正樹	75
理事 山崎正樹	76
理事 山崎正樹	77
理事 山崎正樹	78
理事 山崎正樹	79
理事 山崎正樹	80
理事 山崎正樹	81
理事 山崎正樹	82
理事 山崎正樹	83
理事 山崎正樹	84
理事 山崎正樹	85
理事 山崎正樹	86
理事 山崎正樹	87
理事 山崎正樹	88
理事 山崎正樹	89
理事 山崎正樹	90
理事 山崎正樹	91
理事 山崎正樹	92
理事 山崎正樹	93
理事 山崎正樹	94
理事 山崎正樹	95
理事 山崎正樹	96
理事 山崎正樹	97
理事 山崎正樹	98
理事 山崎正樹	99
理事 山崎正樹	100

講演内容が大原記念財団医学雑誌に特別寄稿として掲載

以下講演骨子になります。

はじめに

認知症高齢者数が令和4年には443万人となり、軽度認知障害（Mild Cognitive Impairment MCI）を含めると1,000万人を超えている。そのような中、これまで介護施設内の事故により施設が利用者、または、家族より訴えられ、施設側が敗訴となる判例が多数見受けられた。これに関して、「医療・介護現場に於ける事故についての現状と課題」を分析し、報告したところ、裁判所から新たな有益な認識・知見を得られたとの評価を得た。この講演の後、過去に多くを占めた施設側の全面敗訴の判決が、施設側の現状や実態に充分配慮された判決へと変化した。

そこでこの度、認知症高齢者に関連した施設内事故に対する裁判における判断基準の再考を願って行った、その講演内容を紹介する。

『老人保健施設とは』

老人保健施設（以下、老健）は1985（昭和60）年、当時の厚生省社会保障審議会から発せられた「病院と施設の

両方の機能を持ち合わせた中間施設が必要である」の答申に基づき、翌年に老健の創設等が盛り込まれた老人保健法改正大綱が公布された。これを機に、1987（昭和62）年、全国に7か所のモデル施設が誕生したのを皮切りに、現在まで全国に約4,200施設（福島県内82施設）が運営されている。これらの全国の老健を束ねる公益社団法人全国老人保健施設協会（以下、全老健）には3,500施設が加盟し、全国で約20万人のスタッフが活躍している。2014年6月〜2020年6月の期間、全老健会長は胸部外科医で、精神科、外科、内科と様々な診療科の医師5人が、副会長を務め、私はそのうちの一人であった。新たな老人保健を担う役割を期待されて設立された全老健は、言わば医師会系の老人保健部門的組織であり、現在まで精力的な活動を行ってきた。各地に老健のモデル施設が誕生した翌年の1988（昭和63）年、国立仙台病院（現仙台医療センター）に厚生技官として勤務していた私は、故郷福島へ戻って、前々から障がい者の病院を創ろうと考

えていた。当時の東北地方医務局長（現東北厚生局長）と話し合う中で、「老健は医療と福祉の機能を併せ持った世界に類をみないこれからの日本の厚生行政の柱になる施設である」という局長の言葉に感銘を受け、その後、厚生技官を退官し、1997（平成9）年、福島県の地に自ら、老健を創設した。

生愛会グループ（以下、当法人）は、開設から28年間、地域に根差した医療・保健・福祉活動を行い、老健である生愛会ナーシングケアセンター（以下、当センター）において、入所（100人）、通所（40人）および訪問利用者に対するリハビリテーション（以下、リハ）などの事業をはじめ、法人グループ全体で総合11事業を展開し、職員数も200人となった。特に、当センターは超在宅強化型老健として在宅療養復帰・在宅療養支援に力を入れており、地域包括ケアシステムの拠点・役割を担う施設として地域住民との信頼関係を構築し、また、医療機関との連携体制の下で地域貢献を果たすことを目的に努力している（図1）。

『なぜ！東京地方裁判所立川支部から講演依頼があったのか』

当時、全老健副会長としての職務（危機管理担当副会長）を遂行している中で、2018年春に東京地方裁判所立川支部より講演依頼があり、私はこの依頼を受けることとなったが、裁判所が何を求めているのか、その意図が掴めなかった。当法人の顧問弁護士である渡辺健寿氏に伺ったところ、「通常は裁判所から民間団体に講演を依頼することはずすない、しかしながら、今回依頼があったのは、若い裁判官が介護の実態を知らずに判断（判決）を下さなければ

ならないことに対して、裁判所が危機感を持ち、実際、各々の裁判を行っていく上で切迫した状況にあるためではないか」と示唆を頂いた。そこで私は過去の訴訟・判例等を損保保険幹事会社の協力も得て調べることにした。その結果、**高齢者施設訴訟に関しては施設側が敗訴となる判例が圧倒的多数を占めている**ことが分かり、この状況では日本の医療・介護現場のスタッフの努力が報われず、疲弊し、業務の萎縮を招いてしまうと懸念を抱いた。施設側に「債務不履行」等に当たる重大な過失があるのは事実なのか、検証すべきと考えた。講演当日、裁判所の所長からも立川

『高齢者の特性と高齢者施設の実態』

支部は20〜30歳代の裁判官が多く、その中から全国の裁判所を中心となり活躍する人材を育成する支部であると同つた。今後の裁判で裁判官に適切な判断を下していただくために、講演の中では老健をはじめとする介護現場の実態への理解を訴求した。

老健は医師、歯科医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、管理栄養士、リハ職（理学療法士PT・作業療法士OT・言語聴覚士ST）、介護職等の多職種が連携して医療・介護を提供しており、特に老人福祉施設（特別養護老人ホーム）とは異なり、医師が常勤であるため、医学的管理に基づいたサービスを提供できることが特徴である。例えば、日常生活を普通に送っていた高齢者が突然、脳梗塞等を起こして急性期病院に搬送され、急性期病院で治療を受けた後、回復期を回復期リハ病棟や地域包括ケア病棟で、その後、維持期（生活期）を老健で療養するケースは多い。老健で医療・ケアを受けた後、認知機能の低下があればグループホーム、一方、在宅に戻ることができる場合は、老健による在宅支援サービス（短期入所通所リハ、訪問リハ等）を利用しながら在宅と施設を行き来して、最期を迎える際には老健で人生の最終段階における医療・ケアを受けるケースが多くみられる（図2、3）。

概ね、「元気老人」と称する高齢者は70歳代前半までであり（健康寿命）、その後は何らかの疾患や障害を抱えながら約10年間、医療保険や介護保険の両輪のもとで治療・ケアを受けながら生活をしている。これが高齢者の実態である。また、虚弱高齢者には「フレイル」や「認知症」の問題がある。日本老年医学会によれば、これらの病態の予後は診断されてから概ね5〜12年と言われている。「認知症は、高齢者を当たり前に襲う疾患である」という認識を持つていただくことを特に強調しておきたい。老健に入所している利用者が虚弱高齢者であっても、家族は「認知症はリハをすれば良くなる」「い



- 医療・保健・福祉 総合11事業 総職員200名
- ◆医療法人 生愛会 (平成26年4月開設)
- 地域複合型総合施設 生愛会 総合リハビリテーション医療ケアセンター
- ・生愛会中央医療クリニック
内科・整形外科・リハビリテーション科・口腔外科
摂食嚥下リハビリテーション科・神経内科・物忘れ外来・歯科
 - ・ヘルスケアスクール（デイ・77:40名）・生愛会ホームヘルプステーション
 - ・生愛ヒルトップ・ルネサンス（サ高住:44室）
 - ・福島市信陵地域包括支援センター・地域交流館（介護予防77・277）
 - ・附属 介護老人保健施設
 - ・生愛会ナーシングケアセンター（平成9年4月開設 入所100床、通所40名）
 - ・生愛会居宅介護支援センター
- ◆社会福祉法人 生愛福祉事業団
- ・特別養護老人ホーム 生愛ガーデン 入居 30床
 - ・高齢者グループホーム 生愛レジデンス 入居 9床

図1 生愛会グループの概要（福島県福島市）

図2 脳梗塞発症から看取りまでの老健の位置付け

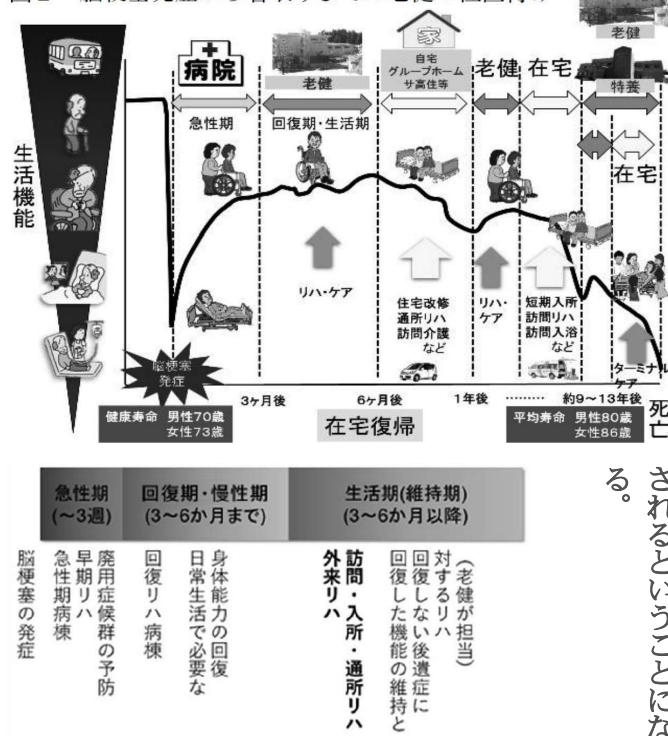


図3 脳梗塞治療：急性期・回復期/慢性期・生活期の概略

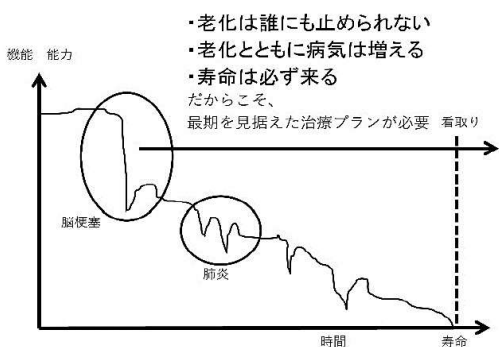


図5 脳梗塞発症後の予後予測

・老化は誰にも止められない
・老化とともに病気は増える
・寿命は必ず来る
だからこそ、
最期を見据えた治療プランが必要 看取り

図5は、脳梗塞発症後の予後予測を示しています。横軸は時間（急性期、回復期・慢性期、生活期）と縦軸は生活機能（生活機能）を示しています。老健は回復期・慢性期と生活期で活動し、在宅では在宅介護や在宅介護などを行います。また、在宅では在宅介護や在宅介護などを行います。



図7 老健のリハビリテーション

幻想を抱く場合が多いものである。そして家族に限らず、「認知症は生命に関わる疾患ではない」という誤った認識を持っている方々（裁判官を含む）も少なくないと推測する（図4、5）。「老化は誰にも止められない。老化と共に病気は増え、寿命は必ず来る」、そのことを家族にも覚悟してもらわなければならない。また、「誰でもいつかは死ぬ」という現実を家族に理解してもらわれないと「自分の親だけは長生きできる」となってしまう。28年間、老健に携わりこのことを痛感している。

老健の利用者の介護度は平均「要介護3.3」である。一方で、全ての老健入所利用者の85%が「認知症の基準Ⅱa以上」（図6）となっており利用者の殆どに認知症による日常生活に支障を来す症状や異常行動、予測不能の行動、そして意思疎通の困難が見られる（図6）。それ故、認知症高齢者の医療・介護事故の原因を介護度だけで判断するのは早計である。ところが、裁判官としては判断材料が乏しい中、どうしても介護度のみで頼らざるを得ない状況があり、このため認知症重症度が重視されず、誤った判断が下されるということになる。

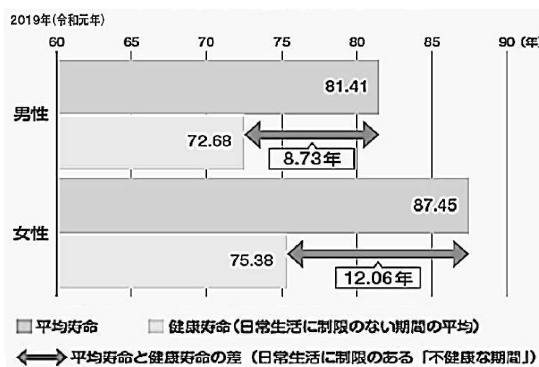


図4 平均寿命と健康寿命の差

要介護度&認知症高齢者の日常生活自立度

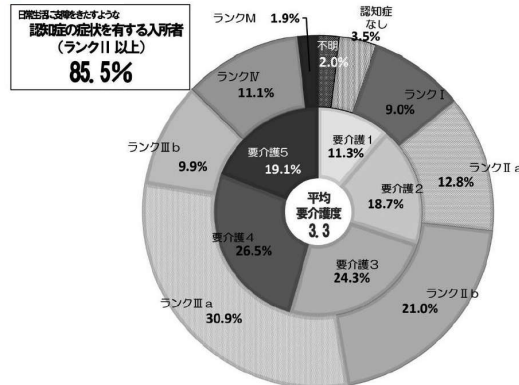


図6 老健施設の入所者の状態像

者の中にはセンサーのコードを引き抜いてしまうなど予測がつかない行動をとってしまうケースもある。高齢者施設において予知予見が可能であったとしても、全てに対応が可能であるとは決して言い切れない。すなわち、認知症患者の行動を完璧に予測して対応することはできないのである。それ故、老健でのリハは「生活の視点」で行われる必要があるため、医師、看護師、PT・OT・ST、介護職等のチームによるリハは、「急性期のリハ」から「生活期のリハ」へと視点を変えたものとならなければならない。様々なプログラムを日常生活に近い形で提供しつつ、利用者に主体性を持たせた「自立支援型のリハ」となる（図7）。

しかし、ここにも大きな落とし穴が存在する。『自立支援を促進すると事故のリスクは高まる』ということである。

徐々に発達し、成長していく乳幼児と異なり、高齢者は回復速度が遅い上に、少しでも動けるようになる」と「自分でできる」と病識なく急に動き出して転倒することが多々ある。しかしながら、このことを恐れてリハを行わないとしたら、廃用症候群を生じて寝たきりになるのは必定である。したがって、リハを行わないことも障害のリスクに結びつくということである。

介護施設では、利用者の自立支援の目標として医療の診療計画に相当するケアプランを作成して医療ケアを提供している。このケアプランが裁判では利用者との契約のように取り扱われ、ケアプランに記載してある内容が完遂されていないと施設側が責任を問われる判例がある。しかし、ケアプランはあくまでも利用者が「このようになりたい」と思う目標、言わば理想の姿であり、必ず達成できるものではない。そして、この誤った司法における判断はスタッ

フを消極的にし、「実行すべきプランをケアプランに記載しない」、「目標を低く設定する」と言った介護の質の低下を招く弊害をもたらしかねない。医療・介護の現場において重大な問題を引き起こすと考える(図8)。

『老健での対応』

ここで、なぜ、これほどまでに介護事故に関する訴訟が多くなったのかについて考えてみる。医療事故の裁判では臨床医学のエビデンスに基づく医学的・医療的判断基準が比較的明瞭である。しかし、介護の世界では医療に比較してエビデンスがまだまだ、確立されていない。このため、介護では利用者に起こりうる事象に対する判断基準が曖昧となるが、本来、判断材料として尊重すべきものは利用者個々の物語りであり、それ故介護の事象を画一的に捉えることはできない。個々の物語りを尊重することは医療・介護の基盤である。しかし、逆説的であるが、この基盤となる考え方が、介護事故が訴訟となる要因の一つとなる。では、どうすれば訴訟を回

避けるのであろうか。最も大切なことは利用者・家族との適切なコミュニケーションであると考え。具体的には、入所の際に、高齢者が抱えているリスクについての丁寧な説明(図9、10)、日常生活動作・リハの実施の様子を撮影したVTRや機能的嚥下内

視鏡検査のVTRの供覧、また、認知機能やADL評価のリーダーチャート提示などの利用者の現在の状態の可視化(図11)、さらに、家族にスタッフと共に利用者に対してケアを実施してもらうなど、家族へのアプローチを行うことである。積極的に利用者・家族と対話ができる環境と機会をチームで構築していくことが重要である(図12)。

高齢者施設における事故には、「防げる事故」と不可抗力に発生する「防げない事故」がある。事故をゼロにすることはできない。家族と対話のできる環境と機会をチームで構築していくことが重要である(図12)。

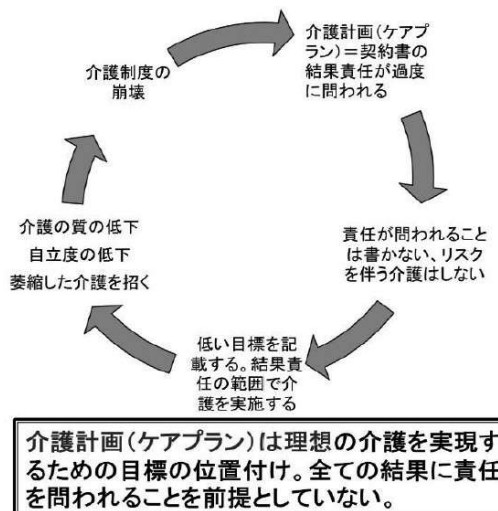


図8 介護事故における課題と提言



図9 全国の老健のモデルとなっている生愛会グループのリスク説明書



図10 転倒予防ガイドライン



図12 多職種による家族との適切なコミュニケーションと綿密な打ち合わせ

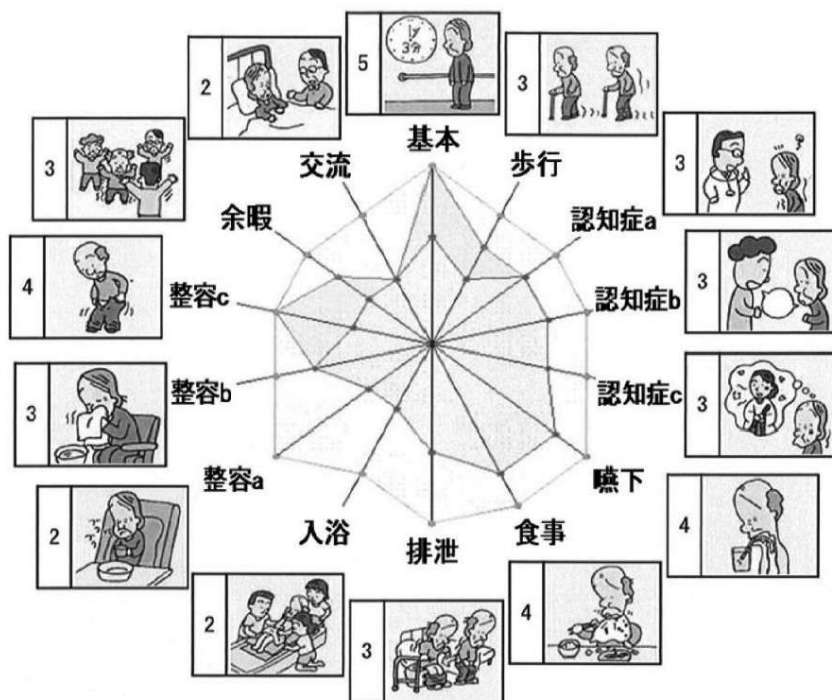


図11 国際生活機能分類 (International Classification of Functioning, ICF) を用いたレーダーチャート (かかりつけ医との連携にも使用)



図13 生愛会独自のカスハラ防止啓発用ポスター

・家族の権利意識が高く、残念ながらモンスター、或いはクレイマーといわれる家族による過剰な要望・苦情等、いわゆるカスハラ事例も見受けられるようになる。現在、尊厳と秩序のある介護が難しいという現実がある(図13)。

それでも、施設はヒヤリ・ハットの蓄積・分析や事故カンファレンスなどによるリスクマネジメントの進歩を見据えた多職種での努力を日々欠かさない。リスクマネジメントに関して、さらに、全職種では私が発足当初から関わってきた認定リスクマネジャーの養成に力を入れ、リスクに関して幅広く専門的な知識を持つ人材を育成している。

2018(平成30)年に行った、東京地方裁判所立川支部の講演の後、施設側の主張が徐々に受け入れられ、近年、従来であれば施設側が敗訴となっていた判例が、高齢者の特性と医療・介護従事者の実態に充分配慮した判例へと変化してきている。また、厚生労働省も社会問題として対策に乗り出すなど、カスハラ問題への理解も徐々に進んでいる。このように司法の見識が深まってきているばかりではなく、社会の風向きも好転してきていることは、我々、医療・介護者のやりがいにも繋がると思う。

当生愛会グループは、2024(令和6)年6月1日(土)に大原記念財団大原医療センターと医療機関・介護保険施設の協定医療機関協定書を締結し、同年8月26日(月)、大原医療センターにて契約記念講演会をさせていただきました。更に、この度の講演内容を大原記念財団医学雑誌への特別寄稿として掲載いただきました。大原医療センター石橋敏幸院長の御高配に心より感謝申し上げます。

補足となりますが、私の叔父、本間守男(現神戸大学医学部名誉教授・当法人勤務、山形大学医学部細菌学教授、神戸大学医学部細菌学教授・同大学医学部長を歴任)は、東北大学助教時代は大原総合病院で野兎病の研究に関わり、大原研究所の野兎病の論文指導を受け持っておりました。また、私の父は、医師としての振出しは大原病院の勤務医でした。改めて、大原記念財団との深い縁に感謝致します。

生愛会グループの一員となつて

医療法人 生愛会グループ

常務理事
副院長

医学博士 大戸 斉



鈴木淳一顧問の紹介で、生愛会グループの一員として勤務することになりました。大変にありがたいことと感謝しています。

私は小学校低学年の時分は山がちながらも人々は皆活発で元氣な集落で暮らしていました。小学1年から2年生にかけて、同級生が次々と亡くなり、「死とは何だろう」、「死んだらどうなるのだろう」、「魂はあるのだろうか」と苦悶し、寝付かれない日々が続き、毎夜母親の手を握って布団に入っていました。

そんな折、小学2年の時に、新聞配達の話聞き、一員に加えてもらい、やや離れて点にする5軒の家に配達することになりました。新聞配達は

未だ幼い私に生きる希望を生してくれました。ベゴ（牛）は幼い少年を見つけると、「ンモー」と呼びかけ、私も「モー」と応じます。山羊も「ンメエ」とあいさつに加わり「メエ」と返事を返し、田んぼと小川を挟んで「ンモー」

「ンメエ」の合唱が毎朝繰り返されました。私はベゴと山羊との合唱がとても楽しみになり、病んだ心は自然と癒されていきました。今でも牛を見ると「ンモー」、山羊を見かけると「メエ」と声をかけたくなる習性が抜けません。

生愛会にお世話になることになり、小学生の時分を思い出しています。人生の最終段階に至り、「死後の世界」に想いをめぐらす方もいることでしょう。「個人を尊重した平穏な」寿命とはどのようなものなのか。私も70年近く前に苦悶した命題に何らかの答えを見出さなければなりません。

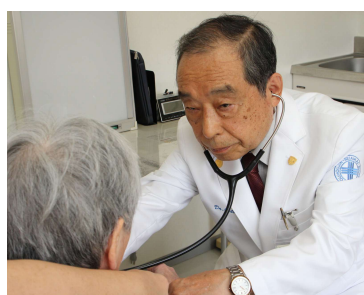
生愛会は医師、看護師、リ

ハビリテーション療法士、栄養士、ケアマネジャー、介護福祉士といった訓練を積んだ専門領域の医療職スタッフと事務職、調理員・清掃員（委託）、施設管理職などが入所者のケアに実に誠実に取り組んでいる姿をみて、また同時に一緒に仕事をする事ができて、これまで医師一般が漠然と抱いていた老健・介護施設への既定概念を一新してくれています。

本人と家族が人生観・価値観を基本に医療的ケアと生活について納得し、倫理的・医学的にも妥当で適切な対応をしていることを深く知り、真摯な対応に心を打たれています。

おおとひとし／医学博士
主な役職等

(医)生愛会グループ常務理事・副院長
福島県立医科大学医学部 昭和五十二年卒
福島県立医科大学医学部同窓会 会長
元福島県立医科大学医学部 部長
元福島県立医科大学統括副学長 理事
元福島県立医科大学医学部 教授
(輸血・移植免疫学講座)



利用者の診察をされる大戸副院長

福島市社会福祉協議会 高橋雅行会長
(元)福島民報社社長・常務理事 事務局長が生愛会を視察

2026(令和8)年7月27日(月)、社会福祉法人福島市社会福祉協議会 会長高橋雅行様(元福島民報社社長)、同協議会 常務理事菊田悟様、同協議会 事務局長 宗像正彦様が生愛会グループへ視察にお越しになり、当法人の本間達也理事長と対談されました。福島市社会福祉協議会は、地域住民、ボランティア、福祉や保健の関係者、行政などと連携しながら、地域の支え合いを進める団体として広く活動を行っている団体です。

対談では、深刻化する医療・介護の人手不足について、生愛会グループでの現状を踏まえて、本間理事長より長い眼でみた対策が必要であることを訴えて参りました。福島市社会福祉協議会 高橋会長からは、福島県の福祉人材センターとつながる形で、介護助手募集の周知や福祉分野で働く人材の裾野を広げる活動更に、募集案内では、資格や専門経験がなくても始めやすい業務を示し、短時間勤務や

今後福島市社会福祉協議会との連携を密に図り、医療・介護の人材発掘に生愛会グループ全体で取り組んで参ります。



福島市社協 菊田悟常務理事 福島市社協 宗像正彦事務局長
福島市社協 高橋雅行会長 本間達也理事長

地域発展を考える会「ヴォイスふくしま」主催 第10回納涼祭に本間理事長が登壇

福島市のイベントへ 本間理事長登壇

2026年（令和8）年8月23日（日）、福島市まちなか広場にて第10回納涼祭が開催され、本間達也理事長が医療法人グループを代表して登壇し挨拶を行いました。

本納涼祭は地域発展を考える会「ヴォイスふくしま」が主催し、今年で第10回を迎えることとなりました。

福島市内で活動している各団体によるダンスや演奏、極真空手、授産製品の販売などが行われ、また、飲食ブース・警察車両や自衛隊車両の展示コーナーがあり、若い世代や子供たちも参加して賑わいを見せていました。



(左側から) 福島県警友会会長 生愛福祉事業団 評議員 今泉満臣様
(中央左側から) 医療法人生愛会グループ 本間達也理事長
福島市商店街連合会会長 小河日出男様
ヴォイスふくしま実行委員長 古川幸伸様
福島市長 馬場雄基様
福島県警察本部署長 佐藤剛様

本間理事長が登壇し挨拶



多数の来賓の方が登壇され開会式が行われました



自衛隊の演奏
装甲機動車展示

福島市中央地区町会連合会 町会研修会で講演 多くの受講者で賑わう！

笑いも起こる 本間理事長の講演

2026年（令和8）年2月24日（火）、福島市中央地区町会連合会の小河会長より講演の依頼を受け、「老健施設と地域連携について」を本間理事長が講演致しました。

福島市民センターにて研修会が行われ、会場には各町内会の会長60名が参加し、興味深々に話を聞かれておりました。

本間理事長からは、時折昔懐かしい新町の歴史などの話も聞かれ、また、摂食嚥下の話では、冗談も織り交ぜながらの分かり易い説明に、感嘆の声や笑い声なども聞かれ、終始和やかな雰囲気での講演が進められ、質問の時間が足りないほどの盛況の内に閉会となりました。



時折笑い声が聞かれる
本間理事長の講演

令和8年度福島県福祉・介護職員のつどい

内堀福島県知事とともに 本間達也理事長が介護職員を激励



2026年7月28日（火）ビックパレットふくしまにて『令和8年度福島県福祉・介護職員のつどい』が開催されました。

福島県内から新任の福祉・介護職員が100名集まり交流を持ちました。

生愛会グループからは本間達也理事長と生愛会ナースングケアセンター介護職の佐藤浩輝と生愛ガーデン介護職の鈴木佐知子が参加しました。

開会式では内堀知事より介護の基本は笑顔での挨拶であるとの話があり、その話の最中に突然、本間達也理事長（福島県老人保健施設協会 会長）が内堀知事よりご指名を受けて、急遽、会場の新入職員へ向けて、「こんにちは！」と笑顔で元気よく挨拶のお手本を見せる場面もあり、暖かな雰囲気での会が進んでいきました。

**本間達也理事長が
県老健協会の
会長として開催**

2026(令和8)年6月17日(水)に福島市のエルティにて、一般社団法人 福島県老人保健施設協会主催の総会と管理職等研修会が開催されました。



県老健協会会長として挨拶をする
本間達也会長

当協会の会長を務めている生愛会グループの本間達也理事長より主催者挨拶があり、「今問題となっている人材不足について、法人・施設はどの人も人材確保に苦慮していると思う。中には、悪徳な人材紹介会社もあり、法外な金額を請求された話も聞く。行政機関より3名の講師をお呼びし、具体的な対策などを学ぶことができるよう企画した。現場で働く職員の皆様の負担を少しでも軽減し、人材不足感なく安心して働くことができる一助となりますように。」と話がありました。

**講演Ⅰ「医療・介護・
保育分野の人材確保に
ついて」人材確保の
方法と注意点」**

厚生省の野内伸一様の講演では、職業紹介事業を利用する場合は、職業安定法等により、有料職業紹介事業者は手数料や違約金、返戻金等の内容を確認できるように求人者に明示することや、契約締結前にどのような時に料金が発生するのか等をよく確認し、納得がいけない時は契約を結ばないように注意が必要なことなど、トラブル事例を踏まえて話があり留意点を学ぶことができました。



厚生労働省 福島労働局 職業安定部
需給調整事業室 室長 野内 伸一様

**「医療・介護・
保育分野の動向及
び人材確保支援」**

厚生省の鈴木彩様の講演では、ハローワークと民間職業

紹介事業所の就職実績を通して、深刻な人材不足の現状について説明がありました。「人材確保支援として、ハローワークでは人材確保対策コーナーを設置しており、専門職員による職業相談やセミナーを実施していることや、インターネットサービスのご案内があり、ぜひ活用してほしい。」と話がありました。



厚生労働省 福島労働局 職業安定部
職業対策課 雇用指導係 係員 鈴木彩 様

**講演Ⅱ「福祉人材セ
ンターにおける無料
職業紹介の取組みと
介護助手の導入につ
いて」**

福島県社会福祉協議会の鈴木聖子様の講演では、福祉人材センターの活用について、詳しく説明がありました。「事業所のニーズに合わせて求職者の採用までをサポートしており、求人サイト「福祉



社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 人材
研修部 福祉人材課 課長補佐兼福祉人材
センター 副センター長 鈴木 聖子 様

のお仕事」の法人登録をすることで、要望を満たす求職者を紹介してもらうことができる。」、また、「合同就職説明会や介護助手募集支援もしているため、ぜひ活用してほしい。」と話がありました。

**短い時間の中で
実りのある研修に**

2時間の研修会ではありましたが、中身の濃い研修会となりました。

最後に、一般社団法人 福島県老人保健施設協会 沼崎邦浩副会長より閉会の挨拶がありました。

沼崎副会長からは、「高齢者施設における人材不足への対応は当協会としても急務です。しかしながら、厳しい状況ではありますが、会員施設でも互いに支え合いながら、

より安心して働ける環境づくりとサービスの維持向上に努めていただきたく願っております。」と人材不足への課題と各施設での協力を呼びかけて、閉会となりました。



閉会の挨拶をする一般社団法人
福島県老人保健施設協会沼崎 邦浩 副会長

会場の参加者からは「人材確保の参考にしたい。」「行政や関係機関と一緒に考えて寄り添ってくださることに感謝します。」などの声が聞かれました。



管理職等研修会 会場の様子

一般社団法人 福島県老人保健施設大会 盛大に開催 (老健施設の学術研修会)

**本間達也理事長が
大会会長として開催**

2026(令和8)年3月16日(月)に福島市のエルティにて、一般社団法人 福島県老人保健施設大会が200名の参加者のもと、開催されました。本大会は生愛会グループの本間達也理事長が大会会長を務め、開会の挨拶では、「東日本大震災から今年で15年を迎え、未だ復興は道半ばの状況であり、今後、予想される災害に備え、地域・施設間の繋がりをより強固にすべく学術研修会を企画した。」と話がありました。また、当協会の顧問として元福島県保健福祉部長・元福島県教育委員会教育長である鈴木淳一氏が今年2月の理事会にて承認されたことについて報告がありました。



大会会長として挨拶をする
本間達也会長

**BCPと災害時施設
相互応援協定**



ミネルヴァベリタス
顧問 本田茂樹先生

本大会の講演Iではミネルヴァベリタス株式会社 顧問の本田茂樹先生より「BCPの進め方と福島県老人保健施設協会 災害時施設相互応援協定の進め方」をテーマに、昨年締結した災害時施設相互応援協定の解説と運用についてご講演をいただきました。ご講演の中で、「BCPの計画作成について、最初から完璧を求めていくのではなく、日頃の訓練を通して、少しずつ疑問点や噛み合わないところを修正していくことが大切であること」、そして、「当協会の災害時施設相互応援協定についても、現段階で仕上がっているものではなく、これからの模擬訓練で使いやすいものにしていくこと」について話がありました。

防災・減災・そなえ



特定非営利活動法人 福島県防災士会
理事 藁谷俊史先生

続いて、講演IIでは、福島中央テレビの防災解説者としても活躍されている、特定非営利活動法人 福島県防災士会 理事の藁谷俊史先生をお招きして、「福祉施設における防災・減災・そなえ」をテーマに具体的な防災対策について、ご講演をいただきました。講演の中では、いわき市で起きた水害の実体験を通して、先生自らが感じられた「地域との連携の重要性」、「日頃からの訓練が間違っている場合には、災害時に重大な事故に繋がってしまうリスクを含んでいること」、そして、「訓練でできないことは、実際に災害が発生した際にもできないこと」等の話を頂きました。

**災害訓練の実際と
訓練から見えた課題**



一般社団法人
福島県老人保健施設協会
副会長 鈴木眞一先生

最後にシンポジウムとして昨年当協会の協定書に基づき災害訓練に参加された会員施設から発表がありました。シンポジウムではJCHO二本松病院 病院長・一般社団法人 福島県老人保健施設協会 副会長の鈴木眞一先生が座長を務め、シンポジストとして当施設から橋本佳彦介護主任、介護老人保健施設 エルダーランドから主任介護支援専門員 原宗隆様が参加しました。



介護老人保健施設 エルダーランド
主任介護支援専門員 原宗隆様



附属介護老人保健施設
生愛会ナーシングケアセンター
橋本佳彦 介護主任



熱心に聞き入る200名の受講者

歌声喫茶 7年ぶりに開催 懐かしい歌に声を合わせて

地域の方々と楽しむ 歌声喫茶

2026（令和8）年7月14日（火）地域交流館カナリアにて歌声喫茶を開催しました。

歌声喫茶は、昭和30～50年代に東京などの都市部で誕生し、当時は労働運動や学生運動の高まりとともに人々の連帯感を生み、最盛期には日本全国で100軒を超える店があったといえます。

生愛会グループでは、以前よりオレンジカフェにおいて歌声喫茶を定期開催しておりましたが、コロナ禍の休止で久しぶりの開催となりました。当日は地域の10名の方々と医療法人 生愛会グループの先生方が集い、本間達也理事長のギター伴奏に合わせて声を揃えて合唱を行いました。歌の合間には、当時の流行話や街中の様子など昔話に花が咲き、とても和やかな雰囲気でした。7年前から参加されている方は、久しぶりの開催に「懐かしい空気で楽しかった」と話され、また、はじめて参加された方からは、「また誘ってほしい」と嬉しい感想をいただきました。

今回久しぶりの歌声喫茶開催となり、7年という時間は空きました。懐かしい空気感とは当時と変わらず、合唱を通じて気持ちの一つになる様子は清々しく、また、思い出をみんなで共有できる時間は大変貴重なものであると改めて感じました。今後も地域のみなさんとともに、懐かしい日本の文化・風土を語り継いでいけるよう、活動を継続して参りたいと思います。



ギター伴奏を務める本間理事長

川村院長・大戸副院長・鈴木運営顧問も参加しみんなで声を合わせて一体感のある会場

地域の高齢者が「地産地消」のお菓子作りを通じ高校生と交流

オレンジカフェにて 世代間交流開催

2026（令和8）年8月18日（火）地域交流館カナリアにて、福島県立福島西高校家庭クラブ生徒との世代間交流を開催しました。

昨年度より福島西高校家庭クラブとは、福祉ボランティア事業の一環として、高校生の施設見学や生愛祭へのボランティア参加など、積極的に交流を積み重ねており、今回は夏休みを利用して「地域の方々と地産地消のお菓子作り」をテーマに交流を図りました。

当日は、家庭クラブの生徒3名と顧問の齋藤由美先生、地域の方々4名に参加いただき、この時期とても美味しい大笹生特産の桃を使ったクレープ作りを行いました。使用する桃は地元の果樹園で採れた川中島白桃といって、やや固めの果肉がとってもジューシーで甘い桃です。参加者のみなさんは、高校生と地域の方との混合チームを作り調理に臨まれ、最初は互いに緊張ぎみでぎこちない様子もみられましたが、地域の方が高校生に桃の上手な切り方をレクチャーし、高校生がクレープ

生地を上手に焼き上げると拍手が起きるなど、いつの間にか和気あいあいと笑いの絶えない楽しい調理となりました。なかでも、参加した男子高校生のやや危なっかしい手つきがみるみる上達する姿を見守る地域の方の優しい笑顔が印象的でした。

お楽しみの試食タイムでは本間理事長をはじめ、川村院長、大戸副院長、鈴木運営顧問をお招きし、みんなで作った桃のクレープを美味しくいただきました。はみ出た生クリームもご愛敬、桃の果肉がゴロゴロと入ったクレープにみなさん満足し、とても楽しいひとときとなりました。

高齢化・核家族化の進む現代では、異なる世代との間で交流機会を持つことはとても難しくなっています。単にコミュニケーションの機会を作るだけではなく、若い世代に直接地域の歴史・文化を伝えられる時間は貴重であり、地域の方々にとっても張り合っている大切な取り組みであると感じることができました。今後も、高校生との交流を深めていくなかで、よりよい地域貢献を模索



最後に記念撮影 お疲れ様でした 楽しくおしゃべりしながら調理 出来上がったクレープを美味しくいただきました

していただけるよう、職員一同取り組んで参ります。

医療法人 生愛会グループ 拡大新年会 開催

地域の医療・介護・福祉関係者が集まる

本間達也理事長の 主催者挨拶

2026(令和8)年1月16日(金)に福島市のアマンダンアイルにて、医療法人生愛会グループ拡大新年会が執り行われました。

例年はクリスマス会として生愛会の役員・職員、並びに関係業者の方々をお招きして開催していましたが、今年は日頃からお世話になっております地域の医療・介護・福祉関係者との交流も図る目的で、拡大新年会として開催致しました。総勢200名の関係者が集まり大変盛況となりました。

会の初めには生愛会グループの本間達也理事長が来賓の方々への日頃からの感謝の気持ちをお伝えするとともに、生愛会グループの現在の状況



主催者として挨拶をする
本間達也理事長

そして、来年生愛会グループは30周年を迎えること等についてご報告を行いました。

来賓代表挨拶



来賓を代表して挨拶をする
一水会 木村三浩 代表

続いて、来賓代表として一

水会代表の木村三浩先生から本間理事長と長年の盟友である、その繋がりについて伺い、また、生愛会グループのさらなる発展を期待されての激励の御挨拶を頂きました。そして、昨年新たに福島市長とな

られた馬場雄基市長に御登壇を賜り、生愛会グループの職員、並びに医療・福祉に携わる関係者への労いの言葉を頂きました。本来ならば御出席頂く予定でございました参議院議員 鈴木宗男先生が御身内の方の御不幸で来福がかなわず、また、衆議院議員 福島伸享先生が急な衆議院解

散のためお越しいただくのが難しい状況となり、お手紙で御祝辞とともに、来年は必ずお越しいただけるとのお言葉を頂戴いたしました。



来賓を代表して挨拶をする
福島市長 馬場雄基 先生

続いて、医療法人生愛会

川村博司院長より御出席いただいた地域の医療・介護・福祉関係者への感謝の言葉と生愛会の発展を祈念して乾杯の発声があり、祝宴へと移りました。



乾杯の挨拶をする
川村博司院長

祝宴では仙台老舗のジャズバーである仙台クロスビー Jazz Bar & Restaurantよりプロボーカル JUDITH 様に生演奏のジャズを奏でて頂き、会場は大変盛り上がりしました。



Jazz Bar 仙台クロスビー
村上徳彦様、JUDITH様による生演奏

閉会挨拶

最後に医療法人 生愛会 常務理事 谷口裕子施設長(法人統括看護部長兼務) よりお越しいただいた200名の皆様の御健勝と感謝と益々の生愛会の発展を祈念して万歳三唱で会が締めくくられました。



閉会の挨拶をする
谷口裕子 常務理事 兼 施設長



200名の参加者が集まり大盛況



とうほう地域総合研究所 高野浩一チーフコンサルタント
大原医療センター 石橋敏幸院長
福島市 馬場雄基市長 本間達也理事長

生愛祭2026 盛大に開催



代表挨拶をする
医療法人 生愛会グループ
本間達也 理事長

2026（令和8）年7月4日（土）、医療法人 生愛会 生活期総合リハビリテーション医療ケアセンターにて『生愛祭2026』が盛大に開催されました。利用者・家族、来賓の方々、そして地域の方々等、約400名の参加者が楽しいひと時を過ごしました。今年は「地域に根ざして29年、30周年に向けた新たなステップ」地域の皆様とともに「をテーマに地域交流と若い世代にも医療・福祉の取り組みを知って頂く目的で開催しました。参加者の熱気と歓喜に満ちた生愛祭となりました。



急遽駆けつけてくださった
衆議院議員 西山尚利 先生



来賓の挨拶をする
福島県議会議員 大場秀樹先生

主権者として、医療法人 生愛会グループ 本間達也理事長から「来年、医療法人 生愛会グループが30周年を迎えるにあたり、地域との交流、若い世代に医療・介護の魅力を伝えていく使命がある。」と挨拶がありました。

また、会場には衆議院議員 西山尚利先生も駆けつけてくださいました。



来賓挨拶をする
社会福祉法人 生愛福祉事業団 評議員
元福島市議会議員 木村六朗先生

その後、社会福祉法人 生愛福祉事業団 評議員・元福島市議会議員 木村六朗先生、福島県議会議員 大場秀樹先生より来賓を代表してご挨拶を頂戴し、開催の幕が上がりました。



自転車安全運転シミュレータで
交通ルールを体験するご家族

今年の生愛祭は「地域交流と若い世代との世代間交流」のテーマのもとに、福島北警察署にご協力を頂き、来場の子供たちや地域住民の方々へ日頃より地域の治安を担っているパトカー・白バイの展示や自転車安全運転シミュレータ（映像を通して危険予測や標識、交通ルールを自然に体感できる）によって交通事故防止を啓発して頂きました。子供たちは車両に乗り込んで写真撮影をする等、家族で楽しみながら、交通安全について学んでおりました。

そして、若い世代との交流では、福島県立福島西高校の生徒18名にボランティアとしてお手伝いを頂きました。生徒の皆さんには、子供たちが

福島西高等学校 家庭クラブ 生徒の皆さん ボランティアありがとうございました



楽しめるように企画した輪投げ、射的、ヨーヨー釣りなどの出店で、利用者や地域の子供たちとの関わりを持って頂きました。

出店では、生徒さんが笑顔で接客する姿がみられ、また、元氣な呼び込みの声が会場を明るく包みました。生徒さんたちにとっても来場者とのやり取りを通して、楽しみながら社会との関わりを学ぶ貴重な機会となったのではないのでしょうか。

今年の生愛祭は1日（午前・午後）を通しての開催となりました。数多くの方に少しでも長く楽しんで頂けるように、キッチンカーのら・さん、たさんやサニー青果さん、遠刈田温泉の ienoakari さんにご協力を頂き、ら・さん、たさんで人気のカレーパン、サニー青果さんからは朝取りのトウモロコシやねつとりと甘い焼き芋、ienoakari さんからは深煎りのアイスコーヒー・自家製レモネード等を提供頂きました。



トウモロコシと焼き芋を提供する
サニー青果さん



大人気のカレーパンを提供する
キッチンカー ら・さん、たさん

各ブースでは長蛇の列が並び、大変好評を頂きました。来年も引き続き出店の程よろしく願いいたします。ご協力いただきありがとうございます。



鳥勝牛肉店 米沢牛串を先着200名に
炭火焼きで提供

そして、今回の目玉として、米沢の鳥勝（老舗の牛肉店）より川村博司院長の差し入れで、先着200名に米沢牛の牛串炭火焼が振舞われました。来場者の皆さんはともおいしそうに食べておりました。



自家製焙煎のコーヒーや自家製レモネードを提供する遠刈田温泉 cafe ienoakariさん



地域交流館 カナリアにてTOHOカルテットさんに演奏頂きました

今年は何年になく、多くの地域の皆様にご協力を頂きまして、余興を大いに楽しむことができました。
1つ目の余興は地域のイベントや福祉施設などにおいて、ボランティアで演奏活動を行っていらつしやる東邦銀行の『TOHOカルテット』（弦楽四重奏）さんです。古閑裕而の「高原列車は行く」、栄冠は君に輝く」、アンコールには美空ひばりの「川の流れる

ように」、などが演奏され、音の重なりがとても美しく深みのある弦の響き、温かさに会場の皆さんも酔いしれておりました。続いて、午後に入り、地域でいつもお世話になつております折戸地区青年会による伝統太鼓をご披露いただきました。

盛りだくさんの
余興の時間となりました!!



折戸地区青年会による迫力のある伝統太鼓

いつもながら、迫力のある太鼓と笛の音で、息の合った一体感のある演奏に会場も盛り上がりました。

生愛祭2026 400名が来場!!

生愛祭もいよいよ終盤
ライブステージで大盛況!!



恒例となりました、生愛会グループで結成されたバンド『カナリアンズ』の演奏が夏の空に響き渡りました。今回の演奏より新たにキーボードで秋葉義広様、菅野弘子様メンバーに加わりました。

『馬場市長も飛び入り参加』

急遽、馬場市長も参加され、演奏が進むにつれて会場の熱気は高まり、アンコールのスタン・バイ・ミーでは、来場者の皆様と会場全体が一体となり、利用者からも多くの声援が聞かれる中、会場は大いに盛り上がりしました。

《カナリアンズ メンバー》

- ・医療法人 生愛会グループ 理事長 本間 達也先生 (ヴォーカル)
- ・福島市議会議員 生愛会健康推進アドバイザー 石山 波恵先生 (ヴォーカル)
- ・生愛会地域ボランティア推進委員 近野 淳様 (ドラム)
- ・生愛会地域ボランティア推進委員 猪俣 俊一様 (ギター)
- ・秋葉魚店 社長 秋葉 義広様 (キーボード)
- ・ピアノ講師 菅野 弘子様 (キーボード)
- ・医療法人 生愛会グループ 理事長秘書 伊藤 健博 (ベース)
- ・医療法人 生愛会 技能実習生 チャン・ティ・キム・ガン (ダンサー)
- ・ホアン・ティ・ハ (ダンサー)



地域で活動している『昭和熱風団』によるバンド演奏は生愛祭に花を添えていただきました



閉会の挨拶をする
医療法人 生愛会 常務理事 川村博司院長

締め括りとして、医療法人 生愛会 常務理事 川村博司院長より閉会の挨拶があり、盛況のうちに今年の生愛祭は閉幕となりました。



最後のステージは利用者とカナリアンズのメンバーも一緒に踊りました

最後の余興では、地域で活動しているバンド『昭和熱風団』の皆さんに昭和の懐かしい曲を演奏していただき、熱気あふれる空間となりました。

2026年度臨時施設内研修「第2回熊対策 実践編」



地元の方からお借りした熊の毛皮をさわる職員

講師は、前回も講師を務めた生愛会ナーシングケアセン

2026（令和8）年8月10日（月）に臨時の施設内研修を開催しました。

今回の臨時施設内研修は、今年6月2日（火）に福島市笹木野で発生した、工場内に熊が侵入し工場の職員を襲う事件があった事を受け、熊対策についての研修を臨時で行いました。

現在、生愛会グループでは熊対策として『110番非常通報装置』（ボタンを押すだけで、自動的に110番へ緊急通報される装置）、『自動ドアの手動化』、『ラジオの24時間屋外常時放送』、『熊避けの忌避剤』、『熊避け高周波』などの設置を行っていましたが、いつ熊が出没してもおかしくない環境にあり、施設内に熊が侵入するという最悪の事態を想定した訓練を行いました。



熊の侵入時の対処法を実演する橋本佳彦介護主任

講師は、前回も講師を務めた生愛会ナーシングケアセン

まずは、静かに行動し自分の身を守ることが最優先であり、その後、館内放送や内線で熊の侵入を知らせることが大切であると学びました。日頃、消防訓練で大声で危険を知らせる行動訓練をしているため、対応の違いに驚く職員もおりました。

熊が施設内に侵入して来たことを想定し、その対応を実演しながら演習を行いました。各職員が「さすまた」や「熊スプレー」を手に取り、対応する中で、橋本主任より「決して熊と戦ってはいけない!」「熊は逃げるものを追う習性があるため、背中を向けず、静かに後方へさがり、『110番非常通報装置』を押すことが重要である!!」と話がありました。

はじめに、施設玄関にて、熊が施設内に侵入して来たことを想定し、その対応を実演しながら演習を行いました。各職員が「さすまた」や「熊スプレー」を手に取り、対応する中で、橋本主任より「決して熊と戦ってはいけない!」「熊は逃げるものを追う習性があるため、背中を向けず、静かに後方へさがり、『110番非常通報装置』を押すことが重要である!!」と話がありました。

ターの橋本佳彦介護主任が務めました。

ベトナム人技能実習生へ電動自転車講習会を開催



電動自転車運転の講習を受ける技能実習生6名

2026（令和8）年4月1日（水）に道路交通法が改正され、自転車運転に青切符が導入されました。

生愛会グループでは技能実習生に対して、1人1台の電動自転車を貸与しています。文化の違いもあり、改めて、自転車を運転する際のルールについて講習会を行いました。

自転車運転の青切符の対象となる行為には「一時不停止」「右側通行」、「イヤホン運転」、「スマホながら運転」などが含まれています。

基本を守ること、大きな違反を避けやすく、まずは左側通行、信号を守る、止まれで止まる、スマホを見ない、酒を飲んで乗らない、などについて注意を促し、自分の身を守るためにもヘルメットの着用を呼びかけました。

2026（令和8）年4月1日（水）に道路交通法が改正され、自転車運転に青切符が導入されました。

生愛会グループでは技能実習生に対して、1人1台の電動自転車を貸与しています。文化の違いもあり、改めて、自転車を運転する際のルールについて講習会を行いました。

2026（令和8）年4月1日（水）に道路交通法が改正され、自転車運転に青切符が導入されました。



生愛ガーデンにて歌うハッピー佐藤様

2026（令和8）年1月より生愛会グループの音楽療法の一環として、ボランティアの佐藤仁志様（ハッピー佐藤）に毎月継続して、懐かしい昭和歌謡曲を披露していただいています。

楽曲は坂本九の「上を向いて歩こう」や松村和子の「帰ってこいよ」など、場が明るくなる曲が選曲され、利用者からのリクエスト曲もそのたびに歌っていただけるなど、

2026（令和8）年1月より生愛会グループの音楽療法の一環として、ボランティアの佐藤仁志様（ハッピー佐藤）に毎月継続して、懐かしい昭和歌謡曲を披露していただいています。

生愛会グループに新たなスターが誕生

世代の記憶に結びつく名曲は、口ずさみやすさや会話のきっかけにもなります。

福島県を代表する作曲家である古関裕而の「高原列車は行く」を披露していただいた時には、故郷の猪苗代を想い出して、涙を流しながら想い出を話されていた利用者もありました。



カナリアにて歌の振付に利用者からの手拍子

生活期リハビリテーション棟 寿司イベント実施

附属介護老人保健施設 生愛会ナーシングケアセンターにて寿司振る舞い

2026（令和8）年4月22日（水）、生愛会ナーシングケアセンター3階にて寿司イベントを実施しました。利用者や嗜好調査の結果から、かねてより寿司の提供を望む声が聞かれており、株式会社メフォス協力のもとで今回のイベントを実施する運びとなりました。当日は3階のフロアに屋台を設置し、まぐろやえび、金目鯛などの握り実演と太巻きやいなり寿司の提供を行いました。職員も法被を着用し、会場を盛り上げ、利用者からは「ずっと前から楽しみにしていた。」「美味しい。また食べたい！」など



握り寿司の実演



の声が聞かれ、昔よく行ったお寿司屋さんの思い出話に花が咲く場面もあり、とても好評でした。
今後皆さんに楽しんでいただけるようなイベントを企画していきます。



太巻きといなり寿司

本体通所リハビリテーション 園芸療法で大収穫

夏野菜の収穫で漬け物作り 利用者の皆さんでおいしく頂きました

2026（令和8）年度の園芸療法では利用者から「茄子は下葉を多めに切ると実が大きくなる。」「ピーマンは早目に枝を紐でつるし、枝に負担をかけないように。」「実を大きくするためのコツは風通しを良くすることだから剪定は大事。」など数多くのアドバイスをいただき、利用者の知識・経験に日々驚きながら一緒に野菜を育ててきました。

今年は野菜の育ちが良く、収穫された野菜は漬物にし、利用者の皆さんの昼食として提供しました。

育っている野菜の成長をみながら、利用者の方々の話も弾み、昔話に花を咲かせる



収穫された夏野菜



収穫の喜びに満面の笑みで
野菜を摘む利用者



葉っぱの剪定を職員に伝授する利用者

場面もありました。利用者も「畑は久しぶりだけど楽しい。」「汗を流しながら手入れをしている様子は、とても楽しげでした。また、畑仕事の経験のない職員も、今では野菜の育て方の知識が身につく、野菜を育て収穫できる喜びを利用者と一緒に分かち合っています。」

特別養護老人ホーム生愛ガーデンの行事報告

旧堀切邸見学

2026（令和8）年7月14日（火）と、23日（木）に飯坂町にある旧堀切邸で開催された「風鈴祭り」に行ってきました。

沢山の風鈴が所狭しと飾られていて、夏の風物詩である風鈴の音色が心地よく響いていました。



土用丑の日「鰻」

土用丑の日にちなんで、2026（令和8）年7月24日（金）に屋台で香ばしく焼いた鰻のかば焼きを頂きました。



2026（令和8）年7月29日（水）に笹谷にある富樫農園に桃狩りに出かけました。たわなに実った「あかつき」もぎたてをその場で頂いてきました。美味！

ふくしまの「桃」



鰻を食べる前に「うなぎ釣りゲーム」をやってウォーミングアップ。おなかをすかせて食べた鰻のかば焼きは格別に美味しかったです。

事業団の夏祭り

2026（令和8）年8月7日（金）に生愛ガーデン食堂にて夏祭りを開催しました。今年度はグループホーム生愛レジデンスと合同で実施しました。

午前中はスイカ割り。何度もチャレンジしましたが、今年のスイカはなかなか割れなくて、最後は職員が気合を入れて割りました。



午後は「スイカの当て」と、「昆虫採集（虫取り）」のゲームをして、盛り上がりました。そのあと屋台からかき氷がふるまわれて、少しの間でしたが「涼」を感じることが出来ました。



グループホーム生愛レジデンスの行事報告

お花見ランチ



2026（令和8）年4月29日（水）に、ご家族をお招きして生愛レジデンス屋上に「お花見ランチ」を開催しました。

屋上で食べるお弁当はいつもと違って食欲をそそります。あいにくの空模様でしたが、ご家族の皆様とも楽しくおしゃべりできて、とても有意義な時間となりました。



元気一杯に運動会

2026（令和8）年5月15日（金）に生愛レジデンス屋上に、運動会を開催しました。元気よく選手宣誓をし、準備運動をしつかりやって競技に入りました。

朝から晴天で、程よい暑さの中、赤組・白組に分かれて対戦しました。



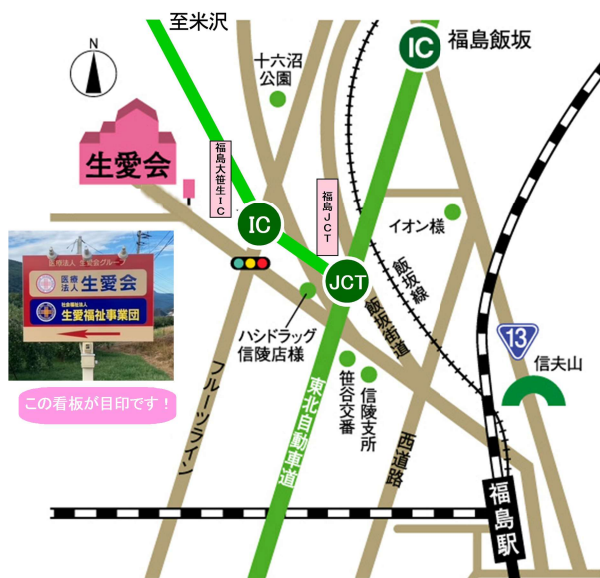
競技内容は「カエル飛ばし」「箱引き」「紅白玉入れ」の合計3種目です。

勝ち負けは関係ありません。元気一杯楽しく汗を流しました。





医療 保健 福祉 総合11事業 総職員200名
医療法人 生愛会グループ空撮全景



4号館

地域複合型総合施設

生愛会 総合リハビリテーション医療ケアセンター

〒960-0251 福島市大笹生字向平 6-1

内科・整形外科・リハビリテーション科・神経内科
もの忘れ外来・歯科・口腔外科・摂食嚥下リハビリテーション科・放射線科

● 生愛会中央医療クリニック

TEL/FAX 024-555-5963 [E-mail] clinic@seiaikai.jp

クリニック デイ・ケア

● ヘルスケアスクール

TEL 024-558-5568 FAX 024-558-5564

訪問介護

● 生愛会ホームヘルプステーション

TEL 024-558-8139 FAX 024-558-8130

● 福島市信陵地域包括支援センター

TEL 024-558-7867 FAX 024-558-7865
[E-mail] houkatsu@seiaikai.jp

(サービス付き高齢者向け住宅・44戸)

● 生愛ヒルトップ・ルネサンス

TEL 024-558-1539 FAX 024-558-1536

本館

医療法人 生愛会

〒960-0251 福島市大笹生字向平 1 3-1

附属 介護老人保健施設 (100床)

● 生愛会ナーシングケアセンター

TEL 024-555-2244 FAX 024-555-2241
[E-mail] nc-c@seiaikai.jp

● 生愛会居宅介護支援センター

TEL 024-557-7773 FAX 024-557-7774
[E-mail] sien@seiaikai.jp

● 生愛会本部会館

TEL 024-555-2244 (内線1830) FAX 024-555-2241

2号館

社会福祉法人 生愛福祉事業団

〒960-0251 福島市大笹生字向平 1 2

特別介護老人ホーム

● 生愛ガーデン

TEL 024-555-5311 FAX 024-555-3611
[E-mail] garden@seiaikai.jp

グループホーム

● 生愛レジデンス

TEL 024-555-4611 FAX 024-555-3687
[E-mail] residence@seiaikai.jp

3号館

グランヒル生愛 (医師宿舎・職員宿舎)

この看板が目印です！

交通のご案内

お車で

東京から 東北自動車道・東北中央自動車道 約265km 福島大笹生IC お車で約5分

電車で

JR 東京駅 東北新幹線 約1時間20分 JR 福島駅 タクシーで 約15分 バスで(※) 約20分

(※) 大笹生行乗車、大笹生停留所下車、停留所より徒歩10分

編集後記

この度、生愛タイムズ36号を発行致しました。是非、ご覧ください。

表紙の写真は、生愛会の利用者の一部の方や情景作家のスタッフ、そして理事長が三位一体となって、回想療法・作業療法(ペーパークラフト)の一環として製作し、各施設のロビーに展示されている昭和30年代から40年代にかけての日本の鉄道と田園風景を表現したワンショットの写真です。施設に足を運んでいただく機会がありましたら、是非、ロビーの展示をご覧ください。どこか、のどかで平和な昭和の時代を思い浮かべさせる、何とも言えない癒されるジオラマ(情景)です。次回からシリーズで掲載される予定ですので、是非お楽しみになさってください。

生愛会ナーシングケアセンターはお陰様で来年、30周年を迎えます。その節目に向け、皆様に感謝を伝えられるようになるよう準備をしております。

(医療法人 生愛会 常務理事・法人統括看護部長
生愛会ナーシングケアセンター施設長 谷口裕子)

令和8年9月発行(第36号) 発行者: 医療法人 生愛会・社会福祉法人 生愛福祉事業団 生愛タイムズ編集委員会 発行責任者: 本間達也

〒960-0251 福島市大笹生字向平13-1 法人本部 TEL 024-555-2244 (大代表) FAX 024-555-2241

<http://www.seiaikai.jp/>

生愛会

検索